

1. とうもろこしのシカゴ定期は、9月には360セント／ブッシェル台で推移していたが、11月9日発表の米国農務省需給見通しで、単収が市場予想を上回ったことなどから軟調な展開となり、350セント／ブッシェル台で推移した。その後、南米産とうもろこしの作柄悪化懸念から値上がりし、1月12日発表の見通しで単収が上方修正されたことなどから横ばいの展開となったものの、輸出需要が好調なことなどから強含み、現在は360セント／ブッシェル台となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、9月には330ドル／トン台であったが、中国向けの大豆輸出需要が旺盛なこと、10月12日発表の米国農務省需給見通しで、米国産大豆の期末在庫率が下方修正されたことなどから堅調に推移し、11月に入り乾燥による南米産大豆の作柄悪化懸念から360ドル／トン台まで値上がりした。その後、12月中旬に南米産地で降雨があり作柄悪化懸念が後退したことから軟調な展開が続いたものの、1月12日発表の見通しでは生産量が下方修正されたこと、南米産地の乾燥懸念が再び高まったことから、現在は410ドル／トン台まで急騰している。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、8月には40ドル／トン前半で推移していたが、北米産新穀の輸送需要が本格化したことや原油相場の上昇などから値上がりし、現在は45ドル／トン前後で推移している。
4. 外国為替は、9月上旬には109円前後であったが、米国の良好な経済指標を背景に利上げ観測が高まったことなどから円安がすすみ、10月下旬には一時114円台をつけた。その後、米国の経済政策に対する先行き不透明感が高まり、現在は106円前後となっている。

